



# みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



## 特集

秋田駒ヶ岳 [総務課提供]

ニホンジカ対策 [保全課]

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

地域と共に歩み、森林を造る…………… [山形森林管理署最上支署]

### ■我が署の名所

船形山…………… [宮城北部署管内]





# 特集

## ニホンジカ対策

## 保全課

近年、ニホンジカの個体数が急速に増加し、全国で分布域が拡大し、これに伴い農林水産業はもとより、生態系、生活環境などに深刻な被害が及んでおり、林業においては植栽木の食害や剥皮被害による生産コストの増加が林業経営意欲の減退を招いています。

また、食害等により希少植物を始めとする下層植生の消失や植生の単純化等が進み、生物の生息環境の劣化により、生物多様性の保全に支障をきたすおそれがあるほか、森林の持つ国土保全機能への影響が懸念される状況となっています。

このような事態に対処するため、農林水産省、環境省は平成25年12月26日に「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」を策定し、ニホンジカ等の生息数を10年後（平成35年度）までに半減させることとした目標を設定し対策を展開しています。



くくりワナ



くくりワナによる捕獲

関東部（五葉山、早池峰山）や宮城県牡鹿半島でニホンジカの生息密度が高く、深刻な農林業被害が発生しています。その他の地域では、ニホンジカの生息密度が低い状態にありますが、近年目撃情報が増加しつつあり、生息域の拡大が懸念されています。

このため当局では、平成26年6月からニホンジカ対策に関するプロジェクトチームを設置し、有識者からの助言・指導も受けつつ、生息密度の高い岩手県及び宮城県において造林地の食害防止対策、生息状況の調査、越冬地の把握、各種協議会や講習

会等への参画による情報収集などに取り組んできたところです。

また、シカ捕獲対策として、囲いワナによる誘引捕獲に、遠野支署では平成27年度、三陸中部署、宮城北部署では平成28年度から、三陸北部署においては平成30年度から取り組んでいます。

さらに、遠野支署では地方自治体等が行う許可捕獲を支援するため、冬期の林道除雪を実施しており、平成30年度にはその路線数を2路線から7路線に拡充することも、遠野市等とワナ貸出協定を締結し小型囲いワナの貸出しを行うなど、地域と連携した捕獲に取り組んでいきます。

平成30年度の捕獲実績は、平成29年度の捕獲数15頭から115頭と大幅に増加しました。



協定に基づき小型囲いワナを貸与

これは、中型囲いワナによる誘引捕獲に加え、新たに「小型囲いワナ」と「くくりワナ」を導入し設置数を増やしたことによるものです。

今年度の取組については、①委託事業による囲いワナ及びくくりワナの捕獲実施（三陸北部署、三陸中部署、遠野支署、宮城北部署）、②ワナ貸出協定締結の促進（三陸北部署、三陸中部署、遠野支署、宮城北部署）、③クマの錯誤捕獲を避けたシカの捕獲方法を検討、④林道の冬期除雪を実施し地域と連携した捕獲支援、（三陸北部署、遠野支署）⑤早池峰山周辺森林生態系地域の

高山植物をニホンジカの食害から保護するため防鹿柵の設置（三陸北部署、遠野支署）などを進めることとしていきます。



狩猟者支援のための林道除雪

# 美しい森林づくり

## 地域と共に歩み、森林を造る

### 山形森林管理署最上支署

当支署管内の最上地方は、古くから林業生産活動が盛んな地域であり、国有林では収穫期を迎えつつあるスギ人工林が多いです。

当支署では、開かれた「国民の森」の実現のために地域と連携しながら森林づくりを目指しており、その取組の一端を紹介いたします。

管内のイベントへの支援と参加を通じて、森林環境教育と国有林のPRを実施しています。

①真室川町観光物産協会主催の「真室川梅まつり」および山形県林業まつり実行委員会主催の「山形県林業まつり」に出展



真室川梅まつり 森林環境教育

し、森林環境教育・鳥の巣箱づくり体験を実施しています。国有林の仕事や森林整備・治山事業の必要性などについて、パネル展示による説明を行い、地域住民に理解を深めています。今後は、森林生態系の保全や木材利用の重要性などへの理解の醸成も図る予定です。

②鮭川村観光協会が主催する「まぼろしの滝・与蔵の森トレッキング」にイベントスタッフとして参加し、樹齢一七〇年を超えるブナの美林、大蛇伝説が残る「与蔵沼」、雄大な「まぼろしの滝」を巡ります。森林が持つリラクゼーション効果を肌で感じながら、森林に関する知識や情報を共有してもらいました。

「遊々の森」の協定締結箇所において、森林環境教育の支援と国有林のPRを実施しています。

①NPO法人山と川の学校と協定を締結している「しぐらみの里」にて、協定相手方と最上町からの講師派遣要請を受け、中学生の林業体験として間伐を実施しています。森林の働き・林業という仕事・安全作業について説明を行った後、職員による指導の下、作業を行います。参加者からは、伐倒時の迫力や達成感など普段味わえない体験ができ、有意義であったと喜ばれています。



しぐらみの里林業体験 間伐作業の指導

②甌山探究会と協定を締結している「塩根川学校の森」にて、地区の子供会を対象に自然環境学習会を行っています。子供たちに森林に慣れ親しんでもらうため、木の年齢を数えたり、木工教室や森の中のピザ作りなど、様々な体験してもらいます。これからも、森林の役割や大切さを学ぶ場の提供に努めていきます。

次は、民有林と国有林とが協調して地域の森林造りを進めるための、主な民国連携の取組です。

①平成二八年度に真室川町内において「西小又・小国地区森林整備推進協定」を締結しました。年二回の運営協議会では意見交換や調整を行いました。現在は林道の新設が進められており、路網の整備に伴う森林整備の進捗が期待されます。

②現地検討会については、低コスト化の民有林等への普及を目指

し平成二九年度に「一貫作業システムの検討会」を最上町内の民有林にて実施しました。  
また平成三〇年度には「労働災害防止意見交換会」を国有林野内の生産・造林の事業箇所で開催し、林業事業者と行政とが連携して安全意識の向上を図りました。



労働災害防止意見交換会 生産事業地での巡回安全点検

今年度以降も各種の現地検討会などを実施し、新しい技術・安全意識などの普及・共有を目指します。

これからも当支署では、地域と一体となって森林整備を推進し、次の世代に多くの美林を受け継いでいけるよう取り組んで参ります。



## 遊々の森での 育樹活動について

津軽森林管理署

7月6日(土)、津軽森林管理署 相馬森林事務所管内の遊々の森「などわの郷(あなたと私の郷)」で、『守ろう地球のたからもの』を合い言葉に、育樹活動(除伐、つる切り、枝おろし)が行われました。

この活動は、日本ユネスコ協会連盟が三菱UFJフィナンシャル・グループ社員に呼びかけ、当署を含む林業関係団体で構成する「育樹連絡会」が協力しています。

2008年からブナ等の植樹活動を行い、2013年からは、植栽した苗木の育樹活動を行って、一区切り付

いた今年がこの活動最後の年となりました。

関東・関西からグループ会社の社員が約30名、受入れ側は、当署や津軽白神森林生態系保全センター職員など林業関係団体(育樹連絡会)から約60名で、90名ほどが活動を行いました。

開会式に先立ち、例年同様、山に対する感謝の気持ちや作業の安全、豊かな自然を次の世代に引き

継げるよう神主さんが神事を執り行いました。主催者のあいさつ、来賓として当署長もあいさつを行い、参加者は5班に分かれて作業に入りました。

少し話しが固くなりますが…、国連では、持続可能な開発目標(SDGs)として、17項目を掲げており、これを受けて三菱UFJグループでは、企業として7つの項目を優先的に取り組む「環境・社会課題」として定め、その中の一つとして「地球温暖化・気候変動」に対する取組をあげており、育樹活動はそれに基づくものです。

開会式までは曇り空で過ごしやすかったのですが、作業が始まる頃には太陽が顔を出し気温も上昇、参加者は汗だくになりながら、慣れない下刈鎌とノコギリでの作業

業を行い、藪だった箇所が見通しが良くなる、満足そうな笑顔が浮かべていました。

当署の職員も参加者の作業を手伝いながら交流を行い、2時間半ほどで作業は無事に終了しました。

閉会式では、サプラ

イズゲストとして「わさお」も登場、参加者からは「かわいい」との声が上がり、カメラやスマホで写真を撮影し、作業の疲れも癒やされたようでした。

翌日は、暗門周辺「高倉森」での登山も行ったようで、二日にわたって白神山地周辺の自然を満喫された事と思います。いつかは、家族を伴って再びこの地を訪れて欲しいと思っています。



神事の様子



作業前の打合せ



作業の様子

# 令和元年度 生協ふれあいの森植樹祭

三八上北森林管理署

6月9日(日)、「第19回ふれあいの森植樹祭」と題して、青森県生活協同組合連合会主催による植樹イベントが開催され、スタッフを含めて計140名が参加しました。当日は、八甲田山系の山々がくつきりと見渡せる好天に恵まれ、無事に実施することができました。

## 1. 植樹活動

十和田市奥瀬字谷地国有林119林班内ふれあいの森協定箇



植樹方法の説明



植樹に励む皆さん



所において、当署職員の指導の下、ブナの苗木250本を植樹しました。参加者は小学生の親子連れから大学生、定年後と幅広い年代が集まっており、慣れないクワの扱いやしごとい笹の根に苦戦しつつも、一生懸命に植樹を行っていました。

## 2. 森林教室・木工体験・乗馬体験

植樹後は、昨年につづいて森林教室を実施することとし、今回は森林散策を兼ねたゲームとして「フィールドビンゴ」を行いました。参加者同士で声を掛け合いながら森林の中を歩き回り、植物を観察したり、鳥の声に耳を傾けたりして、自然とふれあっていたできました。

さらにその後、十和田乗馬倶楽部の協力により、希望者は木工体験や乗馬体験も楽しみました。



仲良く探索中



よーく観察してみよう



木工体験



# 三沢海岸の植物

—ハマエンドウ、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマボウフウ、ドクウツギ、クコ—

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

かつての三沢海岸は砂浜からクロマツの防風林が広がり、海浜植物が多く見られる海岸でした。東日本震災以降は津波のダメージや砂浜の減少で少なくなりましたが、時間経過とともに隙間を埋めるように再生力を発揮している海浜の植物を紹介します。

ハマエンドウは、砂浜に生え楕円形の小葉を持ち羽状複葉で、紫で蝶型の花が特徴。エンドウマメのような5cm程の莢<sup>さや</sup>が付く。コウボウムギは、海岸線の近くまで生え飛砂に強く、細い葉と筆のような穂が特徴。名の由来は、麦のよう穂を弘法大師の筆に見立てた。ハマニガナはジシバリに似て這うように生育し、飛砂に強く黄色の舌状花が特徴。別名ハマイチョウともいい葉の形が由来。ハマボウフウは1時間歩いてようやく見つけた1株で、セリ科で癖のある若葉の天ぷらや、根を薬用とする。近年は砂浜の減少で全国的に絶滅の危機にある。ドクウツギは、河川敷や山野にも生え、赤い実が特徴。子供の誤食による

死亡事故もあり気をつけたい植物。防風柵の中で扎扎实り再生していました。クコは海岸には珍しくテトラポットの隙間で生育していました。つる性の樹木でトゲ状の小枝があり、紫の5弁の花と熟すと食べられる赤い実が特徴。

砂漠や極地と違い、降水量の豊富な日本は、岩や崖など特殊な地形や乾燥地以外で植物が見られる緑豊かな国です。しかし、震災で砂に埋もれたり、種を流されたりした植物たちが、防風柵やテトラの隙間、防潮堤の砂丘等を利用し、過酷な隙間を埋め、新たなチャンスを見いだしています。夏休みには海浜植物のそんな逞しさを見つめるのも一興ですね。



ハマエンドウ



ハマニガナ



ドクウツギ



コウボウムギ



ハマボウフウ



クコ

# 国有林モニターからの便り①

## 国有林モニターとしての雑感 〜国有林モニター見学会に参加して〜

青森県 斗沢 一雄

これまで農業教育に携わり、農業生産はもとより地球環境、農業の役割等に触れ自然の驚異、国土保全の必要性や大切さ、豊かな水を育む森林の大切さを教えてきたが、私の近隣に国有林がないことから、まったく国有林についての知識は持ち合わせていなかった。

今回、国有林モニターの機会を得、目から鱗が落ちる状態であるかのように、常識・知識のなさに痛感させられた。定期的に送付される林野庁情報誌「林野」、東北森林管理局「みどりの東北」またその都度タイムリーな情報提供、さらには素人でも理解できるよう専門用語の質問まであり、親切な情報提供には、頭が下がる思いである。そのこともあり森林や国有林に対する理解度は高まっていると自覚している。

国有林に対する理解度を深化させたのは、やはり現地見学会である。上空からドローンで拝見できた治山治水ダムは、自然環境に配慮しており、まさに国土保全の最

前線を担っていると感じ改めて治山ダムの役割を知ることができた。昨今の自然災害には目を覆いたくなるような現実がある。このような地道に計画実行していくこそが真の国土保全・自然保護につながるのではないかと考えさせられた。また、林業の生産現場では、国産の林材の安定供給や林業の最新高性能林業機械導入による低コスト化取り組み等の一貫作業システムが見られ、国内林材の供給バランスを担っていることも知ることができた。野生動物による林業被害状況やその対策についても理解することができた。さらに、育林のための取り組みではコンテナ苗技術により植栽の効率化が図られる等現代にマッチした方法が見られ、なにか未来が明るく見えたような気がした。コンテナ苗の低コスト化を図り、民間の育林にも供給され、これからの林業経営に必ずや役立つっていくものと確信した。

現在、私は退職し家業である農業を趣味

としてはじめた。孫にバケツ稲を栽培させ種まき・移植、昔ながらの脱穀まで体験させたり、家庭菜園は多数の野菜を栽培し、孫からの要望でハウス内にミニトマトのトンネルを作ったら大変好評であった。このように、自然環境の恩恵を実感しながら日々の生活を楽しく過ごしている。その傍ら、農業教員育成と農業大学の講義を担当しているが、これからは機にふれ国有林についていくらかでも触れていきたいものだ。将来の国土保全・森林環境に関心を深めてもらうために。



## 国有林モニターからの便り②

# 国有林って名前は聞くけど……

山形県 大利 麟太郎

国有林って名前は聞くけど、実際にイメージがわからない……昔学校で使っていた地図帳にも載っていた気がするけど、読んで字のごとく「国が保有する林」という事しか理解していませんでした。

山形の庄内地方に移り住んで3年、知り



合いの紹介もあり狩猟を始め、山や森といった自然を身近に感じて来る様になりましたが、さらに理解を深めたいと感じておりました。そんな時に国有林モニターの募集を発見しました。

モニターに参加するまで、私にとって山も森もどれが国有林でどれが私有林なのか区別もつかず、管理者が違う以外の様な違いがあるのか理解しておりませんでした。

鶴岡にある温泉地としても有名な湯田川は「孟宗筍」が有名であり、町の近くには竹林が多くあります。年に何度か人が手を入れないと筍の出る良い竹林を維持することは難しいそうです。私有林であるそれだけの人が持つ林はそれぞれの管理がされており、管理の良い林もあれば、何らかの理由で管理が行き届きにくくなる林もあるようです。私も実際に春の手入れ時期に手伝いをしたことがあります、それはそれは大変手間の掛かる作業でした。

私が知っている山の管理というのはこう

いった里山の話が多く、広大な土地を持つ国有林の管理はどの様に行われているのだろうか？そんなことを気にしている内に毎月届く冊子や資料を読み、毎年行く蔵王スキー場や月山スキー場が国有林の中の屋外スポーツ林の一つとして管理されている場所だということを知りました。スキー場などのレクリエーションの場として目につきやすい国有林もあれば、山奥の沢の治山事業の様に普段目に付きにくいところで我々の生活を守る働きをしている山もあることを知りました。狩猟をしている立場だと鹿や猪の生息範囲の拡大については普段から話に上がることがありますし、山の被害の実情と、防衛最前線の取り組みを見学出来たことは非常に興味深いものでした。

この国有林モニターに参加することにより、今まで以上に山の持つ機能や人が行うべき管理について考える機会が増えたと感じています。国有林の機能を学ぶとともに、私自身が普段からどのように森と関わっていくかを考えながら生活していきたいと思えます。



# 森林官からの手紙

## STOP THE 松くい虫

津軽森林管理署 深浦森林事務所 首席森林官 阿部 隆雄

私が勤務する深浦森林事務所は、青森県西部深浦町の中心部にある森林事務所で、白神山から日本海へ注ぐ追良瀬川を管内に持ち、約11、800haの国有林を管轄していて、日本海に近い場所は主にスギ人工林となつていますが、標高が上がるにつれてブナ等の天然林が広がっていきます。

数年前からニホンジカの目撃が相次いでおり、増加すれば森林被害につながる恐れがあるため、津軽白神森林生態系保全センターが当森林事務所管内に「小型囲いわな」を設置し被害防止対策に取り組んでいます。

また、アカマツ、クロマツ林では、松くい虫による被害（森林病害虫被害）の最北端となっており、松くい虫被害を食い止めるため、日々林野巡視に取り組んでいます。青森県からヘリコプターで上空探査をしたデータを提供してもらい、GPS端末にこのデータを取り込んだものを持ち歩きながら巡視をしています。私もヘリコプターに同乗できる機会があったら乗ってみたいと思います。無人航空機（ドローン）①での探査も有効と考え、以前に被害があった箇所周辺を飛行させ画像を解析して活用しています。

被害木を発見してから駆除することでは被害の拡大防止にならないことから、虫が入り込んだと思われるマツを探し出す「ヤニ打ち調査」②も

行っています。マツの幹に直径約1cm、深さ5mmほどの穴を空け、2時間ほど経過したらヤニの量を観察します。元気の良いマツはヤニが溢れ出ていますが、元気の無いマツは少しにじむ程度か出ないものもあります。それらは疑似木ということで、木片を採取し研究機関へ鑑定を依頼します。昨年は、以前被害があった箇所周辺を約300本調査し、疑わしいマツが2本ありましたが、幸い鑑定結果は陰性ということで、ホッとしています。もうひとつ、ナラ枯れ被害が拡大しており、当森林事務所管内にも迫っていますので被害の拡大防止に努めたいと思います。

管内の巡視、ヤニ打ち調査等を行っているると一日の業務はあっという間に過ぎ夕方になります。ここ深浦町は夕日が美しい町として有名です。③日の入り時刻となれば、撮影スポットにはたくさんの人達が夕日にカメラを向けていて、なかには動画を撮影する人もいます。

海・山どちらも楽しめる深浦町へ足を運んでみてはいかがでしょう。枯れた木を見つけたらぜひご一報ください。



③日本海に沈む夕日



②ヤニ打ち調査



①ドローンでの探査



# 我が署の名所

## 船形山

宮城県加美郡加美町・加美郡色麻町・黒川郡大和町  
宮城北部森林管理署管内

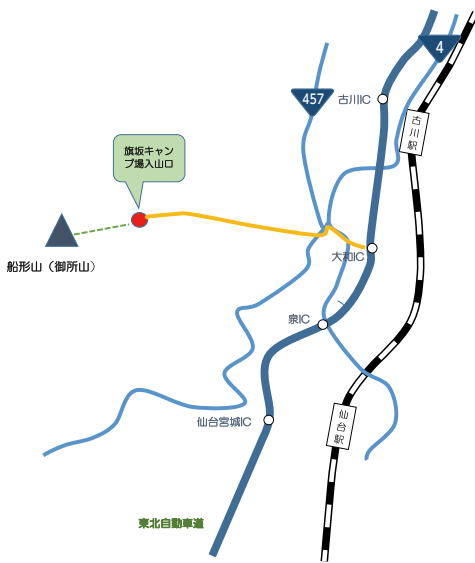
船形山（標高一五〇〇m）は宮城県と山形県の県境に位置し、付近の白髪岳や蛇ヶ岳、泉ヶ岳、葉菜山などの多くの山々と船形連峰を形成しています。ブナの巨木をはじめ、様々な植生や地形を有する船形連峰は両県の県立自然公園に指定され、その景観は昔から多くの人々を魅了してきました。日本二百名山にも数えられています。

船形連峰の主峰である船形山には二つの名前があり、宮城県では船形山、山形県では御所山と呼ばれています。山の形が船に見えるから、山の神にまつわる神話に船が登場するから……、言い伝えられている由来は様々です。

ここでは船形山の登山情報をご紹介します。宮城県側からの主な登山ルートは、黒川郡大和町の旗坂キャンプ場から出発する升沢コース、加美郡色麻町の大滝キャンプ場から出発する小栗山コース、加美郡加美町から出発する夕日沢コースの三つです。



三光宮からの展望



林野庁 東北森林管理局  
宮城北部森林管理署  
〒989-6166 宮城県大崎市古川東町5-32  
TEL (0229)22-2074 FAX (0229)23-8624  
◎交通アクセス  
東北自動車道大和ICから旗坂キャンプ場入口まで、車で約50分

升沢コースは、頂上まで約四時間と三つの中で最も長いコースです。登山口と山頂で一〇〇〇m近くの標高差があるため、ブナの森、草原、稜線と変化に富んでいます。途中にある三光宮には、太陽、月、星の三つの光を刻んだ石碑があり、船形山頂上を含めた展望を楽しむことができます。小栗山コースは、頂上まで約一時間半と短く、気軽に登ることのできるコースです。他二コースの中間に位置し、途中からどちらかのコースに合流することになります。登山口の手前では落差約四〇〇mの色麻大滝を展望することができます。

夕日沢コースは、頂上まで約二時間のコースで、鏡ヶ池という美しい池が見られます。途中で少し寄り道をすれば前船形山へ登ることもできます。

ただ残念ながら、船形山登山口へ公共交通機関を利用してアクセスすることはできません。升沢コース以外は登山口まで未舗装の林道を走行することとなりますので、お越しの際は十分ご注意ください。

船形山にはブナをはじめとした天然林が広く分布し、豊かな自然環境を有するなど多くの魅力がありますので、ぜひ一度体験していただきたいです。新緑、紅葉など季節を実感しながら登ってみてはいかがでしょうか。



三光宮の石碑



新緑の登山道



升沢コースの鳥居

